

産業衛生技術フォーラム

現場における有効な熱中症予防技術

5月15日(金) 9:00~11:00

第5会場(アートホテル旭川2階 イーストルーム)

座長: 齊藤 宏之(労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所)

- 1 製造業における熱中症予防対策の実践
加部 勇(株式会社クボタ)
- 2 新しいまちなかインフラ創出の試み - 「クール&ホットステーション」の検討
増田 幸宏(芝浦工業大学 システム理工学部)
- 3 消防活動中の熱中症予防法の検討
- 暑熱環境におけるアイススラリーの身体冷却効果 -
柳田 信也(東京理科大学理工学研究科国際火災科学専攻)
- 4 可搬型環境センサと低消費電力無線ネットワークLPWA用いたオーダーメイド型熱中症リスク評価の試み
仲吉 信人(東京理科大学理工学部 土木工学科)

座長の言葉

近年、熱中症が多発していることが社会問題化しており、ここ数年、数百人から多い年では1000人を超える熱中症による死亡者が出ており、その対策の重要性が叫ばれている。今年開催されるオリンピックにおいて、熱中症への懸念からマラソンならびに競歩の開催地が札幌に急遽変更となったことは記憶に新しい。職場環境においても、一般に比べると人数は少ないが、毎年数十人の命が熱中症で失われており、休業事例を含めると非常に多くの方が熱中症になっているという実態がある。このことから、熱中症が夏季における重要な労働衛生問題であることは明らかである。

職場における熱中症を未然に防ぎ、不幸な事例を無くしていくには、職場において適切な熱中症対策を講じることが最も大切である。そのためには、どのようにしたら熱中症を防止できるのかについて、具体的な事例を知ることが必要である。このことを受け、産業衛生技術部会では「現場における有効な熱中症対策」と題し、4名の演者より現場における対策事例についての報告をしていただくこととした。第1題では株式会社クボタの加部勇先生より、製造業における熱中症予防対策について報告して頂く。第2題では芝浦工業大学の増田幸宏先生、タニタ株式会社の望月計先生より、屋外における熱中症予防対策について報告していただく。第3題では東京理科大学の柳田信也先生より、消防活動中の熱中症予防対策について報告していただく。第4題では東京理科大学の仲吉信人先生より、IoT技術を用いたオーダーメイド型熱中症リスク評価について報告していただく。

今回の企画を通して、職域における熱中症対策についての理解が深まり、有効な熱中症対策が行われ、結果として職域における熱中症の減少に繋がれば幸いである、